



表紙イラスト..風見2

星の王子

7月号

迂回

サイス書

はだし

恋をしている

スコラプ

真匿名

泥ロボ

【目次】

連作

「アメンボの動力」・・・・・・・・迂回

「臓器」・・・・・・・・ナイス害

「えりちゃん」・・・・・・・・スコラブ

「ウィアーザロボッツ」・・・・・・・・スコラブ

「しるかよ寿司だよ悪いかよ」・・・・・・・・はだし

「すぺりかんするーS」・・・・・・・・恋をしている

星の一首評

☆ファンタジーを表す言葉・・・・・・・・スコラブ

★見逃したものをみせてくれる・・・・・・・・はだし

☆至近で繰り出される言葉のモザイク・・・・・・・・迂回

★「くちびる」という動詞・・・・・・・・ナイス害

☆ほんとうにいて欲しい人・・・・・・・・恋をしている

編集後記

アメンボの動力 迂回

スイッチを入れる られてる アメンボの動力はじけ田んぼに消える
年輪を歯数無限の歯車に喻えてきみはふるふる回る

キツツキの駆動音とかカツコウの唯理論的育児論とか

ハイタッチ ミネラルウォーター ストラップ 跳ねる笑顔と電荷について

パターンに溶かされながら縷々と行く人らの脳の好きなひらがな

夕間暮れひまわり畑の果て 朽ちる分岐に鼻まで浸かる

フォーエバーゴリラの気持ち 脳波なら種の起源から自覚している

いとしいの気持ちいとしいの気持ちを湧かせるしくみ愛してみたら

星々を揺らす数式取り込んでコンソメパンチ選びとる指

ほくの背に向け加速して全力で笑んで飛びつく動力源を

臓器

ナイス害

彼は死に刹那生まれた弟切草、鱒、感情発火装置、

軋み、LOVE、17歳の術、レタス、親指の傷、コッポアポの、

お芋さん、じゃがりこの阿呆、筆を咬む美大生の眼、床の陰囊、

波紋、白湯、沈む笹舟、ギターリフ、さやえんどうと美しい猿、

「市役所に行つてきます」と叫ぶ鳥、おしるし、魔、業、図書カードの下、

涙の王、涙の王女、その類、さあ全部俺の臓器になれ

えりちゃんですよろしくなんて言われたらえりちゃんと呼ぶしかないだろう

ハチミツを塗りたくるのも飽きたろうその手で世界を獲ってみないか

「きらきらでふわつとしててカナリアで」あなたはきつとその服を買う

嘘つきも夜更けの電話も罪だから針千本飲ます水玉の

ウエハースみたく一緒に割れてしまうほくら笑って柵に並ぼう

「星柄の服から星が落ちちてそれでもわたしはわたしと言える？」

ここからはおれの街へと連れて行くパンダの耳は置き去りにして

えりちゃんが恵理に変わったその日からビルのかどうこ鋭く見える

きみの目にゲームオーバーと書いてある今日に限って乗れそうな月

心臓をくれてやるって言ったから今でもおれは恵理の一部で

「その気持ち、夏風邪みたいなものだよ」と金魚が跳ねている診断書

ワイアーザロボット

スコラブ

(胸を指し)部品をくださいマイスター 心などない(心などない)

平日は角を鋭くしています おもに高層ビル群などの

飛ばされた腕を泣く人はいない 虹を見て綺麗と言ってる

「月食はわたしたちの仕業なのです」ふち付きの字を重ねてください

人の真似してシンライム頼んでる 張り切りすぎて椅子を壊した

見なくてもログインボーナスわかります ミロミロで嬉しいね死のう

わからな生き物が増えたり減ったり 遊覧飛行は少し短い

おそらくはわかり合えない人よほくもチリピーンズが好きになったよ

しるかよ寿司だよ悪いかよ はだし

座つたらメロンがやつてくる席でおれもメロンも孤独な走り

中トロに3口つかいおぼはんは何かを揮む箸もつたまま

やりいかの姿を撮つた心中とそえた つぶやくまでいきかける

ここ出ればこんな人生なんやろか、みたいな顔がいねえな まぐろ

おれにだけ見えてる大将 おれにだけ見えてる女将 おれを見てない

「好きなもん選びや〜」っておちゃんも好きなもん選んでる まぜて

ひとりだけ膝を抱えてすわつてる心をほぐす魚の赤だし

また酔つた声で無意味に怒られて「しるかよ寿司だよ悪いかよ いくよ」

座つたらおまえがのつてくる席でおれの右折はやや大回り

あのえびの魂もたぶんあそこへと ふちのほんのり赤い星あつて

すべりかんするーS 恋をしている

もんどAもんどBとはなんのこと歩き出せナイター中継オカマ

禁煙の木曜日って決めている シンカーいらしうなげていたいなあ

おそろしいことばゆうぐれ はるからのファッションリーダーたちに顔を

檸檬付近5kmの渋滞お気をつけ、お気をつけだよ、好きだよ

マジでどうすんのって私はいつも私に言い誰もが雨に濡れているよう

尻がいい感じの人と公園でならないサイレンナイトであった

すべりかんするーSって何回も言ってるうちに星のお引越し

散髪をする傾向がありますね、あなたは、あなただといのだけど

もらったらひらかななければならぬ、と言われて海が近づくと手紙

宇都宮バイブレーション たくさんのひとのなかでも見つけてやるよ



星の 一 首 評

三日月を手渡すときは尖ってる方を自分に向けてしなさい

焼きみかん

日本人がおそらく一般的に知っているであろう、刃物を人に渡す時の作法。本作はそれを諭す言葉を三日月に置き換えたものでありますが、たったひとつの単語が置き換わっただけで劇的な変化が生まれたように感じられました。

ごく一般的な作法の話と、「三日月を手渡す」という非現実的な話がひとつの歌の中に納まっていることで、三日月を手渡すことが自然に行われているというファンタジーな世界感に現実味が生まれており、手渡すさまも容易に想像することができました。

この歌の中では三日月は「刃物」あるいは「尖っていて危ないもの」として扱われており、それがかえって、月の持つ神秘性を高めるように感じられました。さすがに現実には月の満ち欠けは太陽と地球によって起こるものであり、欠けているのは影であるのは理屈ではわかっているものの、本当に月の欠けている部分が物質的に欠けているのではないかと錯覚するぐらい、この歌はパワーを持っているように思いました（さらに言えば、三日月の両端は両方「尖ってる方」であるという矛盾さえ些細なことに感じる！）。

おそらく親が子どもを諭している光景を表しているのですが、このような会話が日常的に行われている世界とは一体どんな所であるのでしょうか。勝手な想像であり、また陳腐な表現になってしまうのですが、きっとこの世の中と非常に似ているけれど、魔術的なものが確かに存在している、そんな世界ではないでしょうか。一言で言えば「お伽草子の世界」とも言えるかもしれません。

ただ、お伽やファンタジーを表すには、いかにもお伽的な言葉をあまり多く持ってきってしまうと説得力に欠けるし、先述の「魔術」のように陳腐にもなってしまいます。この歌の優れているのは、お伽を表す言葉として「三日月」という、現実存在しているが神秘的でもある言葉を持ってきたところではないでしょうか。

個人的に「月」は大好きなモチーフであり、それを上手に詠み込めている歌に憧れを感じるのですが、この歌はその理想に近いものであるように感じました。

見逃してたものをみせてくれる

はだし

そしてパーフェクト・ワールド ローソンがいまこの町で一番青い
かにたべーた

「いま」一番青い、と強調しているの、ずっと続くものではないのかな。
ローソンがそうなるなんてことは、ほかの青はいなくなるんでしょうか。
空も男子トイレのマークも青いから、そういうものがすべて青でなくなる時間、
夜のことかな、と思いました。「町」だからそんなに建物も多くなくて、ほかの
明かりがあまりない場所なのかもしれません。住宅の多いところとかかも。

ローソンは夜に合わせて、ライトがついて、青をきわだたせます。
そんなローソンだったら暗闇との対比でいちばん青くみえるのもありえそうです。
なんだかいい情景ですよ、わたしは好きです。

夜をうたうときってついつい幻想的な方を見てしまいがちです。
月、都市、イルミネーション、横にいるきみやあなた（いないことも含めて）だとか。
現実なんて暗いし怖いし別になにもないし、ってかんじがしてあんまりみようと思いません。
でもこの歌の主体はそうではなくて、現実の世界へ目を向けている。
夜の闇の部分ですね。そして、たぶんその暗い中を自分の足で歩いたのでしょ。う。
だからこのうつくしい青を、パーフェクト・ワールドをみつけられたんだと思います。
こういう「パーフェクト・ワールド」のようなものってたぶん世界にたくさんあって、
でも現実をちゃんと見るということをしないでいると、簡単に見逃してしまいそうです。
「パーフェクト・ワールド」をしっかりと掴みとっているこの歌にあこがれます。

こういう短歌詠みたいなあという個人的な目標・指針のひとつに、いわゆるワードサラダな歌があります。

「ワードサラダ」はざっくり言えば全然関係ない言葉同士をつなぎあわせた文章なんですが、もちろんそれだけなら今どきくらでも自動生成してくれるツールがネットのそこかしこで動いています。

歌にするならそのギリギリ、意味があるのかないのか、言葉の連なりと読み手のとある一点でピントが合ったときに何かが浮かぶような、そんな歌。

なんじゃないかな？と思った歌を紹介したいと思います。

ぼくピエロ ひとふでがきに出来ぬもの お箸 てにをは 君次関数

雲はメタモンりんごは蝶短歌bot

(<https://twitter.com/kumowametanka/status/482754503255404544>)

大好きな短歌botさんからなのですが、そちらの紹介は後に回しまして。

名詞多めで最後の造語と思しき語も混じり、見せ方によってはまさにワードサラダにもなりそうな印象の歌ですが、少し眺めてみると歌にピントが合ってきます。

2句「ひとふでがき」に注目しつつ、3句以降の羅列から見てみます。お箸は2つに分かれている。てにをはは単語を結ぶ助詞ですが、各平仮名そのものではなく、助詞を失えばばらになる言葉達を指しているのかなと思います。ひとふでがきにできないもの達。

それらに続きぼんと置かれる君次関数に主体の主観が込められていそうに感じました。次数が君ってどんな関数なんだろう。ひとふでがきにできないなら不連続なのだろうな。どこが不連続で何と何が繋がってないのだろう...などと考えるうち、主体がピエロであると宣言されていることに気づく。できないものをひとふでがきにしようと必死にもがく姿を笑われているような光景。君次関数は数学的にひとふでがきにできないことがもう明らかなのかもしれないのに。

と踏み込んでみると、言葉ひとつひとつに無駄のない綺麗な歌だなと思わされ、初見でワードサラダ扱いしたことも恥ずかしくなるくらいなのですが。その辺りの少し目を凝らすと違って見えてくる世界がなんとも気持ち良いです。

同短歌botさんはかなり重複が少なくコンスタントに新作を入れられているようで、上記のような「初見の不思議さ」と「緻密な表現」を併せた歌もたくさんありますし、いやでもこれはワードサラダだろうという歌もあればなんだか笑わされてしまう歌もありで大変面白い...んですけど不思議とフォロワーさんは多くないので、是非是非フォローしましょう。

では最後にもう一首紹介して、お終いとしたいと思います。

3Dメガトンインチキハイビジョン反君感情プロパガンデレ

(<https://twitter.com/kumowametanka/status/337287823533170688>)

このデレは受け止めきれない。

[引用元]雲はメタモンりんごは蝶短歌botさん<https://twitter.com/kumowametanka>

「くちびる」という動詞

ナイス害

くちびるとくちびるまたはどちらかがくちびるここは床がつめたい

実山咲千花

昨年、半裸で聴いていた歌会たかまがはら8月号のUST配信でこの歌が読まれ、頭でゆっくり言葉を反芻したら思わず「えっろ」と声が出た。

キスとは恍惚へのスイッチである。

ただそのスイッチは部屋の電気のような潔いものではなく、長押しして初めて作動するもの。

上手く押すには経験が必要であり、間違いなくこの歌の男はスイッチを入れるのが巧い。

「またはどちらかがくちびる」は男も女も該当する行為だが、このリズムで読むと交互にくちびるを当てがってるように思える。

冷たい床を背中で感じるのは熱を持ったくちびるとの対比だろうか。

「ここ」は自宅ではなく、初めて足を入れた場所のどこかだろう。

そこで腹を見せるというのは、もう降伏してる事と同じである。

冷静に天井との距離を測りながら、チカラを抜いたり、込めたりするのだ。

どちらかがくちびるだけでも最後までいけるし、くちびるとくちびるだけでも、実はいける。

身勝手なくちびるを嫌いな人などいるのだろうか。

さて、どうしよう。

おお、きたきた久しぶり。なにやってんのスーツなんて着ちゃってさ、似合わねえ。まあいい座れ座れ。ビールでいいな、ビール以外は飲むなよ、お前はスーツは似合わんがビールはとびきり似合うからな。色々そうだな、積もる話があるけど今日は、いいじゃないの、な？俺もお前ももう大人だ。疲れちまっただろ。上司がどうだのお金がどうだの辛気臭い話は無しにしようじゃないの。今日はもう楽しい、そうだな夢見るような話をしようじゃないの。

ん？呼んだ理由だって？いや別にそんなのはないよ、ただお前とちょっと話がしたかっただけだから。うん、そうそうじゃあ俺から楽しい話をしてやるよ、あれあれえーとな、タンカよタンカ。知ってるか、え？タンカ。ごーしちごーしちしちだぜ、詩だよ詩。分かんたろ？あれでな、俺がすごくイイと思うのがあったからお前に聞かせてやるよ。ああ、背筋は伸ばさなくていいぞ、なんせこれは楽しい話なんだからな。

焦点があわない楽しいほんとうにあなたがたくさんいればいいのに

山田水玉

どうだ、いいだろ？カンドーしちゃったか？...ん？なんかフツーンな感じだと？お前なあ、見損なっただぜ。この歌の良さが分からんかねキミには。はあーなんか人ごとながら情けねえぜ。どういう歌かぐらいは分かるんだろ？そうそう、まあそうだな、「焦点があわない」上に「たのしい」ってのはこれは酔っぱらってる時ぐらいだろうな。多分主人公は女だろうぜ、こいつが恋人かなんかと酒を飲んで酩酊してふらふらんなってよ、そんでその視界の中に「あなた」がたくさん見えただろうな、酔っ払いの瞳は万華鏡〜♪ってな。要は恋の歌だ、まっすぐ恋に向かっている歌だよ。俺はこういうシンプルな歌にはまあ弱くてな、おい、お前似合わねえとか思ってんじゃねえぞ、お前のネクタイピンよりかマシだほっとけ！

でだ。話が逸れたが、これの何がイイってよ、内容もさることながらこのこれだよこれ、この言葉を見るよ「ほんとうに」ほい、声に出してもう一度「ほんとうに」な？これがもう切ねえところだよなあ。おっ？なんか得意そうな顔してんじゃねえか、何だ言いたいことでもあるのか？.....おうおう、なるほどな、お前の言っているのはこの「ほんとうに」の部分の解釈だな。お前にしては冴えてんじゃねえか、そうそうここで「ほんとうに」ってわざわざ言っているのは「実際はそうじゃない」っていうのを印象付ける効果があるな。「ほんとうに」って言うってことは、主人公がこれは現実じゃない実際はあなたは一人しかいないってことも分かってるっていうなんというかな、ちょっと頼りなさげな感じだよな。ましてや「いいのに」だからな、切ねえぜ。「楽しい」って言ってるのもまたリアルだよな、楽しいけどちょっとだけ切ないというかめちゃくちゃ幸せなのにふと、泣き出したくなるみたいなときあるだろ、あの感じなんだろうなちょっと、そういうのはおっさんだけど、分かる。

おっこっちこっち、ビール待ってたよ〜。んじゃま、乾杯。あーやっぱいいね、俺はもうこ

れが飲めるなら死んだっていいよ、うん、お前はやっぱりそうだな似合うな、ビール。
でもよ、さっきの話だけこの「ほんとうに」っていうの俺はもっとすごい言葉だと思うんだよ。もっと、もっと、すごい。例えば、俺が「臭い豚がいるぞ！」っていうのと「ほんとうに臭い豚がいるぞ！」っていうのだと、お前どっちの方を見に行きたいと思う？うるせえ、例えがこれしか出なかったんだよ、四の五の言うな！絶対よ、「ほんとうに臭い豚」の方に魅力を感じるだろ？これはな、単純に「臭い」っていう言葉を強調してるだけじゃないんだよ。分かるか？豚は普通に臭いだろ。臭いことにはどっちも変わらないんだよ。なんだったらほんとうに臭い豚の方が臭いから嫌な感じすらしてもいいはずだけど、でも、違うんだ。俺が「ほんとうに臭い」って言ったことで、お前は今まで臭いと思っていた豚の臭いが、お前がいた世界が「ほんとうではないかもしれない」という可能性に気付くんだよ。だから、お前は「ほんとうに臭い豚」を見たくなるんだよ。実はお前は今まで「豚が臭い」なんてちゃんと自覚したことがなかったんだ、当たり前過ぎてそれは「ほんとう」じゃなかったのかもしれないって分かるんだよ、その時に。

さっきの歌だってそうだよ、「あなたがたくさんいればいいのに」ってよ、別に感情としてはありふれてんだよ、恋する乙女なら誰でも抱くくらいのもんかもしれねえ。でもよ、それを「ほんとうに」思ったことってあるのか？これは単なるノロケでも何でもなくて、祈りだよ。純粋な祈りなんだ。酩酊して意識がぼやとしてるからこそ、出たんだろう一番強い祈りの言葉が。だからよ、とてつもなく切実な感じがするんだよ、俺は。

なんだなんだ俺ばかり話しちまったな、長々と。シツレイしました！

お前の話を聞かせてくれよ、ずいぶんでかくなかったよな。いま何歳なんだ？もうそれも俺は知らねえんだよ。高校生ぐらいまでのお前しか知らねえから、なあ、お前あんときからビールとか平気で飲んでたな。俺は親って立場上、怒鳴ってばかりいたけど、最初からこういう風に一緒に酒、飲んでたらよかったな。生きているうちにやっておけばよかったことなんて腐るほどあるな、まあ今言ったってしょうがないけどよ、子供もいるのか？まだか。嫁は？そうか、まあ俺に似て当然モテるだろうしな、でも嫁さん泣かすなよ、俺は母ちゃん泣かせてばかりだったけどお前は、やめとけ、な。……俺はもういいっちゃいいんだよ、とにかくお前がよ、考えてくれてればいいよずっと。色々なんだ、何でもだよ、何でも。うん、だから、

ほんとうに幸せになってくれよ。

女子高生A「あ！あいつらまたいる！」

女子高生B「え？なにになに？」

女子高生A「あいつらジャングルポケットの単独ライブの列に並んでお客さんが笑うテンションを保てなくなるまで無限に芝居をし続ける劇団『サンゴ礁の傷跡』よ！」

女子高生A・B「ほんとうに嫌だな！」

ブーーーーーーン (豚を乗せたトラックが通り過ぎる)

【編集後記】

こんにちはこんばんは、なんたる星7月号に目を通してくださいましたすべての方々、愛しています。恋をしています。

もう2014年も半分が過ぎ、気づけばなんたる星も2月の創刊号から数えて6冊目になりました。

短歌はほうっておくと作らなくなるし、でも作らなきゃいけないと駆り立てられるようにできるときもある不思議な感じで、だから僕は短歌を作るという行いを絶対に辞めたくなくて、それで、いろんな人に協力してもらって僕は、好きな仲間とこのなんたる星を始めることで短歌を作ることから逃げないようにと目論んだ訳です。

目論みは大成功しており、そしてたくさんの人にこうしてなんたる星が読まれていることは本当にラッキービバラッキーなことです。

皆様に今一度の感謝と、そしてこれからもなんたる星にお付き合いいただければ嬉しいなという願いを込めて、なんたる星会員はだしのとある日の言葉を記したいと思います

「夏が、きますね」

2014 7/6 恋をしている

簡単な一番簡単な魔法を教えるね。星はキラキラ、人は発光体、朝は――

執筆者

はだし(@sunsetsan0)

ナイス書 (@NiceGuuuy)

恋をしている (@yayoikenumai)

迂回 (@ukaian)

スコラブ(@scope_scape)

なんたる星7月号

発行日：2014年7月6日

編集発行人：恋をしている

表紙：風見2 (@Kazami)

Twitter：@nantaruhoshi

Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp